

SSKP ばんび小屋だより No.132

ホームページ <http://nen-net2.com>

6月15日の同窓会総会でお逢いしましょう!!

～6年振りの「懇親会」も開催されます!～ 会長 岩井 勲覧

「新型コロナウイルス」騒ぎもやっと終息しましたが、皆様におかれましては、お変わりなくお元気でお過ごしでしょうか。今回のコロナ禍により、センターも大変厳しい状況であると推察致しますが、同窓会に対する、以前と変らぬ暖かいご配慮、ご支援に対しまして、幹事一同、心より感謝いたしております。

実は、皆様にとっても嬉しいお知らせがあります。2019年6月の同窓会総会の懇親会以来禁止されて来た、「外部の人間のセンター内での飲食」が、条件付きではありますが、許可される事になったのです!という事で、今年度の懇親会では「ちょっと豪華なお食事」を準備すべく、事務局長が張り切っている様です。

今回の懇親会では、桐朋学園大学ヴァイオリン科を卒業された、杉田瑞月（スギタミヅキ）さんという演奏家の女性（写真下）が、ボランティアで演奏をして下さいます。こんな事は「同窓会68年の歴史」で初めてですので、大変楽しみにしております。

ただ、続けて参りました『日肢協・療育センター OBクラブ』の皆様との合同懇親会と記念写真撮影は、総会日程が合わずに断念する事となりました。OBクラブ会員の皆様、色々ご事情もおありかとは存知しますが、もしもご都合が付きましたら、是非とも6月15日の『懇親会』にご参加下さい。お待ち致しております。

では、6月15日の同窓会総会で、幹事一同、首を長くしてお待ちしております!



《2025年度同窓会総会ご案内》

日 時：2025年6月15日(日) 11時～15時

会 場：心身障害児総合医療療育センター 本館3階「大会議室」

「総会」(11時～12時15分)のみに参加の方は、会費300円（総会資料、会場費など）。

「懇親会」(12時30分～15時)まで参加の方は、会費2,000円（昼食、飲み物など）。

当日、『同窓会会費』についても受け付けていますので、どうぞよろしくお願い致します。

問合せ先：佐々木卓司（事務局 Tel：080-3343-9765）

書面表決のお願い：当日総会に参加できない正会員・賛助会員の皆様は、第1号議案、第2号議案に対する賛否を、同封の「返信葉書」の書面表決欄に必要事項を記入するか、委任状で委任をするかによって、「意志表示」をお願いします。

なお、返信葉書は「5月10日まで」にポストにご投函下さい。

【お願い】 日曜日の開催ですので、正面玄関からは入館出来ません。本館右側の入口のインターフォンで「同窓会の者です」と告げて、鍵を開けてもらって入館してください。

●万が一の「総会中止」に関して 万が一の「総会中止の可能性」もございます。総会に参加を予定されている方は、返信葉書に必ず「日中に連絡のつく電話番号」をご記入下さい。万が一「総会中止」の場合には、「事務局」より必ずご連絡いたします。

第1号議案

2024年度活動報告

事務局 2024年度もセンターの3階大会議室での開催となりました。同総会としての出席者は12人と少なかったのですが、午後からOBクラブの方々が来て下さり、賑やかな会となりました。何より、今年初めて桐が丘養護学校の横井先生が来て下さいました。斉藤義信先生が誘って下さってのご参加です。なんと60年ぶりの再会となりました。ただ今回も、まだ飲食が出来ないセンターの決まりなので仕方ないのですが、総勢22名のみさんと記念写真を撮る事が出来ました。

なお、今回の総会で会計担当の加藤道夫さんが退任となり、事務局の佐々木卓司が引き継ぐ事になりました。お亡くなりになった方、ご高齢で退会希望の方など、会員数も減りました。現在の会員数は、正会員154名、賛助会員73名です。

企画部 2024年の企画部の活動は、『旅行 in TOKYO』と、『オータムフェスティバル』に参加するという2つでした。

旅行は一昨年より、「バスを使わない、都内での宿泊と懇親会のためのイベント」という形で実施しました。昨年、ホテルのベッドが高くて上がれない、という事態が起きてしまいましたので、今回は障害がある方専用のホテル『戸山サンライズ』を利用しての開催となりました。宿泊者19名に宴会参加者4名を加えて、楽しい集いとなりました。10月19日にはセンターで開催された『オータムフェスティバル』に参加し、スマートボールとボーリングを担当して、子供さん達に楽しんでもらいました。今回も飲食禁止のセンターなので、『新春の集い』は開催出来ませんでした。

情宣部 2024年度は、『ばんび小屋だより』（本誌、フルカラー印刷、16ページ）を、129号から131号まで、3号発行することが出来ました。同窓会会報は様々な理由のために会の行事に参加出来ない会員の方々への大切な発信手段です。

2025年度もそのことを常に意識しつつ、皆さまに充実した会報をお届けする為、ますます頑張ります。

この1年間、会報にご寄稿くださった皆様方に、この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2025年度活動方針案

事務局 2025年度の幹事会につきましては、昨年同様、毎月の幹事会は、LINEを活用しての意見交換を基本に、会報を発行する時にだけ、センターの多目的棟の部屋をお借りして行う事とします。会の運営に当たっている幹事も高齢となり、今後の会の運営が難しくなる事が予測されます。今年の総会では、今後の方向などについて会員の皆さんの率直なご意見を頂きたいと思っています。

2025年度の総会は6月15日（日）にセンター3階の大会議室での開催です。今回はセンターから「大会議室内での飲食は可能」とのお知らせを受けましたので、6年ぶりに皆さんで食べて飲んで、楽しい総会及び懇親会にします。今回は参加費も2,000円にして、ちょっと豪華なお弁当を用意しようと計画中です。

また、ヴァイオリンを弾いて下さるプロの女性の方が来てくれます。ご期待ください。

企画部 2025年度はセンターの飲食禁止がなくなったようなので、旅行、オータムフェスティバル、新春の集いの3つのイベントが全部実施出来そうです。旅行については、もう参加人数も20名ぐらいなので、リフトバスを使って遠くに行くという事は、予算的に出来ないので、今年も昨年と同じように、『戸山サンライズ』での宿泊と宴会とし、9月27日～28日に実施する方向で、準備をしています。年が明けて1月か2月に、久しぶりの『新春の集い』もセンターで実施出来ると思います。ご期待ください。

情宣部 2025年度は、『ばんび小屋だより』を、132号から134号まで3号発行する予定です。現段階では6月に『総会』、9月に『旅行 in TOKYO』、来年1月か2月に『新春の集い』を開催する予定ですので、また以前のように「楽しい行事の報告」を皆様にお届け出来る様、努力致します。

同窓会会報は、様々な理由のために会の行事に参加出来ない会員の方々への、大切な発信手段です。そのことを常に意識しつつ、皆さまに充実した会報をお届けする為、ますます頑張ります。

情宣部よりの原稿依頼がありましたら、是非ご快諾ください。皆様からの積極的な投稿なども、どうかよろしくお願い致します。

第2号議案

整肢療護園同窓会 2024年度決算報告および2025年度予算案
(2024年度：自2024年4月1日～至2025年3月31日)

収入の部 (単位：円)				支出の部 (単位：円)			
科 目	2024年度予算	2024年度決算	2025年度予算案	科 目	2024年度予算	2024年度決算	2025年度予算案
前年度繰越金	436,677	436,677	534,251	企画部活動費	35,000	16,000	30,000
会 費	160,000	180,000	120,000	会報発行費	270,000	300,000	330,000
援 助 金	150,000	150,000	150,000	会報発送費	15,000	14,743	20,000
寄 付		124,000	0	事務消耗品費	35,000	22,390	30,000
雑 収 入		9,054	0	事務通信費	20,000	19,730	30,000
銀行預金利息		15		記 録 費	0	0	0
郵便貯金利子		56		幹事会運営費	50,000	50,000	40,000
				SSK関連経費	10,000	10,000	10,000
				渉 外 費	10,000	6,080	10,000
				ネット運営費	22,000	24,838	25,000
				予 備 費	279,677		276,251
				次年度繰越金		433,591	
収入合計	746,677	899,802	804,251	支出合計	746,677	899,802	804,251

次年度繰越金内訳 (単位：円)

2025年3月31日付残高		2024年度決算	
現 金	61,308	2024年度 決 算 433,591	
郵便貯金	355,486		
銀行預金	16,017		
合 計	433,591		

上記の通り報告いたします。

2025年3月31日 会 計 佐々木卓司



上記出納ならびに関係書類精査の結果、相違ありません。

2025年3月31日 会計監査 田村 恵一



決 算 収 支 内 訳 明 細

収 入 の 部

会費 本年度は69名の会費納入がありました。
援助金 心身障害児総合医療療育センターから、2024年度も15万円の援助金を戴きました。
寄付 (株)effe様から5万円、他7名の方から寄付として、合計124,000円を頂きました。

支 出 の 部

企画部活動費 「総会」「旅行」「新春の集い」「オータムフェスティバル」の費用として予算計上しましたが、「新春の集い」は開催できず、総会開催時の会議室費用、及び旅行の費用として支出しました。
会報発行費 通常号3回の発行費用です。
会報発送費 通常号3回の発送費用です。
事務消耗品費 葉書用紙、プリンタインク代、会報発送用封筒、事務用品等。
事務通信費 領収書葉書、原稿依頼状、写真返送の発送費など。
SSK関連経費 SSKの「年会費」と、会報発行の際のSSKへの「分担金」です。
幹事会運営費 年3回、会報発送作業の際の交通費。
渉外費 会からの香典費用として支出。
ネット運営費 根の上ネットのウェブサイト運営費。
銀行振込手数料 新しく、別項目として作りました。

予 算 案 収 支 内 訳 明 細

収 入 の 部

会費 毎年会員数が減少傾向にあるので、60名(12万円)としました。
援助金 心身障害児総合医療療育センターからの援助金として、2025年度も計上させて頂きました。

支 出 の 部

企画部活動費 2025年度はセンターでの飲食が可能となりましたので、新春の集いも開催出来ることとして「総会」「旅行」「オータムフェスティバル」「新春の集い」の実行予算を計上いたしました。
会報発行費 通常号3回の発行費用です。
会報発送費 通常号3回の発送費用です。
事務消耗品費 プリンタインク、封筒代、事務用品等。
事務通信費 原稿依頼、領収書発送、写真送付等
SSK関連経費 SSKの「年会費」と、会報発行の際のSSKへの「分担金」です。
幹事会運営費 幹事会に参加する幹事の交通費。
渉外費 弔問費用など。
ネット運営費 根の上ネットのウェブサイト運営費。
銀行振込手数料 会報印刷代の振込など。

人生、「山」あり「谷」あり「ま坂」あり

伊藤奈緒美

1956年12月、出産予定日よりはるかに早く（妊娠8か月目に入ったばかり）、東京都渋谷区の日赤病院で誕生した私は、体重1,190gで、命の危険が迫っていたそうです。現在では考えられませんが、「保育器（クーベ）」は直ぐ近くに無く、病院の廊下を通り、小児病棟に運ばれたと聞きました。その間に、脳内が酸素不足となり、脳性麻痺になったのではないかと（診断されたのは2歳頃）。当時の担当医師が「僕がこの子の命を救います！」と言ってくださって、何とか生き延びる事が出来ました。

小学校2年生までは、母の実家で祖父母と叔父2人と両親と一緒に暮らしていたのですが、3年生の時に、横浜市戸塚区に引越しました。横浜ドリームランド近くの住宅団地で、通学路には田んぼや畑、牛舎、養豚農家、養鶏場などがあり、里山の風景が広がっていました。引越しをして、初めて学校に挨拶をしに行った時、驚いたことに校舎は木造平屋建てで「小学校分校」と表示されていて、1クラス20人程だったと思います。その後、生徒数が増えて、5年生の時に小学校の建替えがあり、鉄筋コンクリート造りの新校舎が完成し、「小学校第1回卒業生」に。中学校も同じ様な巡り合わせで「中学校第1回卒業生」に。

戸塚駅までは、当時バスをみの為、かなり不便な地域でしたが、里山の風景と環境はとても懐かしく、貴重な体験をさせてもらったと感謝しています。

私が「整肢療護園」に入園したのは1969年、12歳の秋。中学1年生の時。両親が「くの字」に曲がって歩行が困難になってきたため、手術が目的で入園。10か月お世

話になりました。初めて両親と離れての入園生活は、色々な障害を抱えた子供たちと交流するうちに、学業より手術後の過酷な機能訓練重視になりましたが、能天気な、結構楽しく過ごしていました。同世代の仲間が多かったこと、思春期だったことが考えられるかと。入園中両親はほぼ、毎週面会に来てくれていたと思います。

退園後に地元の中学校に復学したのですが、案の定、学力低下、数学と英語に苦戦することに。県立高校への進学を断念し、再び母の実家近くのマンションに引越して、電車通学が可能なミッション系の女子校に進学。入学式の際、学長先生の祝辞を聞いて「この高校には馴染めない」と感じて3年間、大学進学を目指し淡々と過ごしていた記憶のみ。そんな私の気持ちを察してか、両親はよく国内旅行に連れていってくれました。

大学は、電車通学可能で興味があった「史学科」に推薦入学。大学生活は、障害のある無しに関わらず、すんなりと受け入れてもらうことが出来、友人や先輩方に恵まれての4年間を過ごしました。

卒業後は、障害者雇用枠で大手町の「東京銀行協会銀行図書館」（金融関係の専門図書館）で14年勤務し、1983年、溝の口の大規模マンションへ引越し。20代半ば頃、「整肢療護園同窓会」に誘われて、参加するようになりました。幹事の一人として受け入れて頂いたこともあり、先輩方と旅行の下見に連れていってもらったこと、佐



藤安弘さんが中心となっていた「根の上サロン」が開催され、様々な障害を抱えながらも、力強く生きている方々のお話を聞いて、とても励まされたことも、良い思い出です。

その後、障害者同士のお見合いで知り合った伊藤幸広さん（ポリオ）と1991年に結婚。幸広さん38歳、私は34歳でした。2年程共働きをして、1993年12月3日、娘の万寿美（ますみ）が誕生しました。娘の誕生直後から、産婦人科医の予告通り、私は支え無しでは歩行が出来なくなり、1年程実家の近くで生活。その後、保育園まで徒歩5分のマンションに引越し。道路事情が悪く、車椅子が使えない環境のため、変形性膝関節症の痛みに耐えながら、手押し車を頼りの子育てに。

夫の協力と私の両親の支えがなければ、到底子育ては出来なかったと思います。娘の卒園を機に、小学校入学式の日、溝の口の実家と同じ敷地内の別棟に入居し、外出時は車椅子を使用するようになり、現在に至っています。

2005年に義母が胸の病気で亡くなり（81歳）、義父を溝の口のマンションの目の前に新しく建設された老人ホームに入居させ、経済的援助をすることに。まさか？（2011年、92歳で天寿を全う）。

2006年、娘の中学入学式の日、母が治療の甲斐なく、膵臓がんで亡くなりました（75歳）。父は、この時80歳。まさか？

娘の成長過程では色々と困難なことがありましたが、中高一貫の女子校に入学後、高校1年で体調を崩して休学。スクールカウンセラーの先生と娘と相談し、高校を中退。

まずは「高認試験」（高等学校卒業程度認定試験）の合格を目指すことが出来、合

格後は大学受験の勉強が出来る予備校に入学。高校進学から大学入学までの期間、特に父の精神的な支えが無ければ、切り抜ける事は不可能だったと思います。2014年、娘の絶ゆまぬ努力と予備校の先生に支えられて合格した5校の大学から、「虎に翼」のモデルになった大学に20歳で入学。まさか？

父が87歳の時に、新聞広告を見て一人で車を運転して下見、東伊豆の熱川温泉にある「高齢者サービス付きマンション」（宿泊可能なゲストルームあり）に入居を決めたと言って、引越しをすることに。まさか？

母の七回忌を終え、孫も大学生になったので、考えていたところだったのでしょう。娘は、学業とサークル活動とアルバイトに励み、充実した大学生活を過ごしていました。

夫は、神経を遣う仕事に加えて、出張や接待などもありながら、生活を支えてくれていましたが、58歳頃から肺にアスペルギルス症と進行性抗酸菌症を患い、東京慈恵会医大の呼吸器内科を受診する様になり、時々「肺炎」で入院していました。60代になり、次第に入院することが増えて、再就職先も2年程勤めて退職しました。

夫は2017年11月30日から12月12日まで、肺炎で入院。私も「尿管結石」の手術を18日に控え、17日からかかりつけの病院に入院。20日、退院が許可されて帰宅すると、夫が「体調が悪い」と言うので、急遽、慈恵会医大に向かうことに。入院準備や車の手配に時間がかかり、病院に到着したのは日が暮れてからだったかと。検査結果は「肺炎」で、個室入院に。

大学に行っていた娘に連絡して、不安な夜を過ごしました。私の手術日が「12月18日と20日が空いているけれど、どちらがい

い？」と医師に聞かれ、「何が起こるか分からないので、18日でお願いいたします」と、何故か即答したこと。夫に頼んで、珍しく年賀状を早めに印刷して投函したこと。まさか？

21日に面会に行くと、前日の服装のままである夫に驚き、急遽、対応を依頼。翌日、夫はICUへ。担当医に病状説明をされ、本人の承諾後、延命治療をすることに。まさか？

娘と私で、毎日面会に行っていたのですが、「二人共、共倒れになるよ」と叔父に忠告されて、交代でICUに行くことに。25日間、夫は過酷な治療と闘い、2018年1月12日午前1時17分、還らぬ人に。重症化の原因は「誤嚥性肺炎」とのこと。

担当医の話によると、呼吸器内科受診の際は、レントゲン写真・CT等を見せながら病状説明をしていて、本人も良く理解していたし、治療も努力していたが、「ご主人が、病状の詳細を家族に話すと心配するので、多くは語らなかったのでは」と。もっと生きていたいと、必死になって病氣と闘ってくれていたのだと。奇しくも1月12日は、父の92歳の誕生日。「お義父さん、64歳で先に逝くので申し訳ありません、後はよろしく願いいたします」と、命を託したのでしょう。私は61歳になったばかり、娘は25歳になったばかり。まさか？

伊豆熱川で生活をしていた高齢の父には、肺炎で再入院したこと、ICUにいることを私は知らせずにいたのですが、娘は状況に耐えかねて、密かに父に連絡をとったとのこと。「分かったから、お母さんには黙っていなさい」と、しっかりと答えたそう。認知症が徐々に進行していた父は、夫の通夜と告別式を機に、急激に症状が重症化。脳へのダメージは計り知れない程、辛

い思いをさせてしまったと、後悔しています。葬儀後の私は、日々色々な事務手続きをこなすことで悲しみを紛らわせ、娘は授業等、諸々のことをこなして、悲しみを紛らわせ、3月26日、大学卒業式に参列。

卒業後の就職活動は思うように行かず、自宅近くのアパレルショップでアルバイトをしていましたが、ある日「このままでは、マズイ！」と自覚、一念発起、IT系企業へ就職。未経験からのスタートでしたが、100%在宅ワークの仕事を選びスキルアップし、現在は、プログラマーの仕事をこなしています。まさか？

2019年6月、父の「左脳硬膜下血腫」が見つかり、伊豆熱川から川崎の病院へ搬送してもらい、緊急手術。11日で退院。運よく施設の介護棟に空きが出来、入居。

2020年から2021年にかけて、コロナ禍に。施設の面会も禁止となり、そんな時、マンションの敷地内にあるイトーヨーカドーに「パソコン教室」が開校。私は2020年11月から、電源を入れることから習うことに。まさか？

娘は、100%在宅ワークの仕事を続けていたので、男女の出会いはいくなく、たまたま大学時代にサークルで一緒だった男性が、「マッチングアプリ」で素敵な女性とめぐり逢い、交際をしていると聞き、何となく登録。相手に希望する条件を全て入力すると、なんとマッチングが。まさか？

意気投合し、お付き合いスタート。電車で1駅の二子玉川のシェアハウスに居住した彼は、コロナ禍で飲食店が早く閉まってしまうため、私が作る夕食が「美味しい」と、何度も食べに来るように。2年程お付き合いして婚約。

父は、2021年5月から認知症専門の南伊豆の病院に入院していたので、溝の口の家

に戻ることはもうないだろうと、覚悟していました。病院の面会は禁止、連絡は電話のみ。以前から両親の希望で、孫に実家を残す様にと言われていたので、10月10日にリフォーム工事を検討してみようと、3人で不動産会社へ。相談終了後「お茶でも飲もうね」と一息ついていたところに携帯が鳴り、「お父様が、亡くなられました」と。まるで、父がすぐ側で見ていたかと思う程の、タイミング。まさか？

父は「もう後は任せたよ」と、孫のパートナーが見つかり、安心して天寿（95歳）を全うしたのでしょうか。

2022年10月22日、リフォーム工事が完了して、パートナーと娘は同居。11月23日入籍。彼も100%在宅ワークのプログラマーなので、大きなデスクを並べて、お互い仕事をしています。私の一人暮らしもスタート。コロナが落ち着いた2023年9月10日、娘の希望で「東京大神宮」で、両家のみの挙式・披露宴。

一人暮らしも慣れてきましたが、何日も喋ることがないことも。マンションの自治会所属団体で予算を頂き、2002年より地域の親子に向けて、月1回の「絵本の読み聞かせ会」と、月2回の蔵書の「文庫貸し出し」を、バイタリティーあふれるリーダーと仲間の方々と続けて、気がつけば早24年目。絵本の奥深さは面白く、趣味というより脳トレとリハビリを兼ねたボランティア活動。子供たちからパワーをもらって楽しんでいます。

コロナ禍に女性作家の時代小説にはまり、「篠綾子」「高田郁」「宇江佐真理」「坂井希久子」「中島久江」などの作品を読んでいます。今年のNHK大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」にも、珍しくはまっています。展覧会に行くのが好きなので、気

になる情報はメモするようになり、友人と一緒に見に行ったり（身障者手帳を持っていると、本人と介護者が無料）、一人で行くことも。駅員さんにサポートをお願い出来るので、ほとんど電車で移動。でも、一般的なタクシーに一人で乗車するのは苦手。

私は、8年前に糖尿病と診断され、治療を続けているのですが、昨年6月、血糖値が再び高くなり、朝昼兼用の食事と夕食の一日2食に切り替え、間食（洋菓子・和菓子・駄菓子）を絶つことに。そこに掛けていた費用を、出来るだけ質の良い食材を選ぶ方に切り替えるようにしました。お陰で体重は減少し、ほとんどの数値も下がる結果に。飲み物は、無糖で。多様食を意識するようになりました。気が付けば、グルメ情報番組を見て「食べたつもり」が出来るように。飲食店に一人で入って食事をするのが苦手。

夫が元気な頃は、家族旅行に年2～3回、娘が嫁ぐ前も2人で旅行に行って気分転換をしていたので、この頃、色々なことが落ち着き「動けるうちに旅行したい」と思うように。でも、観光地は海外からのツアー客で溢れているし、一人旅は難しい。「ひとり時間」を楽しむ知恵を工夫しなければと。

今、家族は1（ワン・柴犬のコタロー）、2（チュウ・ハムスターのハギ）、3（私と娘とパートナー）です。

この原稿を書くにあたり、2014年から保存していた手帳のメモと、夫が亡くなった直後から綴っていたノートの記録を頼りにしました。深い愛情を私と娘に注いでくれた両親と夫に、心から「ありがとうございました！」と伝えたいと思います。

そして、これからも良い「まさか？」が増えていくことを願います。

シリーズ・障害者と仕事 ⑤

出版社としてスタートした朝文社

佐々木卓司

出版社となったことで、私の担当だった軽印刷事業は廃止となり、私は書籍の制作担当及び倉庫担当となりました。書籍の印刷となると、取引する印刷会社も紙屋さんにも変わります。例えば紙の仕入れも、軽印刷の時はB4とかA3の大きさの紙を1000枚とか仕入れて、軽印刷の会社に持って行って発注するのですが、扱う紙が「全紙」(B1、A1)と呼ばれるものになります。つまりA4とかB4とかに切る前の、元の大きさの紙を「包み」とか「連」(全判で千枚)という単位で仕入れ、パレットに乗せたものを紙屋から印刷所に直接運んでもらいます。

これに印刷をし、印刷されたものは、製本所に運ばれて断裁され、帳合、製本、表紙、帯などが掛けられて、会社に納品されてきます。それを段ボールに詰めて、各取次に搬入します。取次に搬入した書籍は、朝文社に対する取次の見立てと、過去のデータから、この書籍に見合った全国の書店に、取次が配送する訳です。

もちろん、書籍の価格は版元である朝文社の我々が自由につけられますが、「売れるかどうか？」は、全く別のことです。

正直に話せば、13年間で初版を売り切った本は1冊もありませんでした。7割返本が当たり前でした。なので、出版社には返本された本を格納する倉庫が、必ず必要になります。また、毎月の手形決済のために、次の本を納めることに追われるのですが、返本が続くと、ついには借金をすることにもなりました。親戚や友人に頭をさげて回り、最後はサラ金にも行きました。でも一度も返済が出来ない事態までにはならなかったのも、借りたお金は毎回全て、必ず

返済してきました。

しかし正直、「もう二度とお金の苦労はしたくない！」と思いました。苦労は人を育てると言いますが、同じ苦労でも、お金の苦労は人間をダメにしていきます。絶対にしてはいけない苦労だと、つくづく思いました。

ある事件

書籍の制作担当だった私は、毎朝1番に出社して各書籍の進行状況を確認し、印刷所、製本所などに進行確認をするのですが、ある朝、取引している印刷所から電話が入りました。「あ、おはようございます、佐々木さん、すみません、ウチ倒産しました！お預かりしているフィルムは私が工場から持ち出してきましたので、お渡しします。紙はまだ工場に残ったままです」。それを聞いた私は、意外と驚きもしなかったのを覚えています。約束した場所でフィルムを受け取ると、すぐに倒産した印刷会社の工場に向かいました。

実は先月、この会社の営業部長さんから、「佐々木さん、我が社、今度4色機を2台入れるので、仕事バンバン下さい！」という話を聞いていたのです。おかしい、何があったのだらうと思いながら車を走らせ、工場に着きシャッターを開けると、印刷機もデスクも製版機材も、全て無くなっていて、ガラーンとした空間に、私が紙屋から搬入してもらった菊判の全紙一連の乗ったパレットが、ポツンと残っていました。私はすぐに紙屋に連絡をしてパレットの引き取りをお願いし、隣の家の人に「何



かこの工場に変わった事はありませんでしたか？」と聞いてみました。すると、「半年ぐらい前から見慣れない人たちが出入りするようになったよ。で、この間、えらいでかい機械が2台入ったと思ったら、それもすぐに業者が来て、みんな持って行ってしまったよ」と教えてくれました。

会社に戻り報告をすると、「取り込み詐欺にあったということだね」と言う答えが返って来ました。

つまり、この印刷会社は借金返済のため、ほとんどその金融業者の言いなりで、高価な印刷機械をリースで購入させられ、金融業者は納入された印刷機を翌日、すぐに売り飛ばしたようです。

この時私は、「実際の世の中は、テレビドラマ以上に恐ろしい事が起きている！」という事を知りました。

転 職

13年間の印刷・出版の仕事を退職する時が来ました。橋詰さんから、「佐々木、どこか就職先を探してくれ。この会社も俺も、そう長くないから」と言われました。橋詰さんは既に末期の癌に侵されていました。それから3ヶ月後、葬儀がおこなわれました。橋詰さん48歳。この人によって、私は社会で生きていく事を教わりました。

葬儀の後、私は、東京体育館で開催されている『障害者雇用促進就職相談会』に向かいました。様々な職種のブースがあり、どこのブースも順番待ちで多くの人が並んでいます。ひと通り会場を廻っていると、誰も並んでいないブースがありました。『日本製紙』とあります。なんとこの会社は、「私の故郷、北海道の旭川にある山陽国策パルプを吸収合併したところだ！」と思い出し、すぐにそこのブースに座りました。そして面接官に売り込みです。同郷で

あること、出版社に13年間いたので、紙の事ならなんでも知っていること、どんな仕事もこなせること、そちらに心配して頂くような事は何もないこと、ある事ない事、ない事ない事を、ただひたすらしゃべり続けました。

口だけは達者なので、面接官には印象が良かったようです。

1週間後に、「有楽町の本社に来て下さい」という通知をもらいました。有楽町の本社に向かい、面接室に通されました。その部屋には私と、面接をしてくれる部長さんだけでした。そこで私はこう切り出しました。「ぜひこちらで働きたいです。でも私も妻がいますし、前の会社では、20万円を支給してもらっていました。こちらのご提示額が16万円となっておりますが、これを20万円にしてもらえないでしょうか。私を雇って、決して御社に損はさせません！」。

本社面接で、なぜこんなお願いをしたかという、現実には16万では生活できないし、「金を欲しがらない奴は採用するな！仕事が出来ないから」という話を聞いたことがあったからです。面接官の部長さんは、少し驚いたような表情でした。「回答は後ほど文書を送ります」というお言葉をもらって帰りました。私はその夜、すぐに旭川の一番上の兄に、今日の事を話し、お願いをしました。「兄さんから、日本製紙に、弟の採用を決めてもらえるように、お願いの電話を入れて下さい！」と。

兄は朝文社の時の借金の依頼も、引き受けてくれた人だったので、「わかった！」と言ってくれました。

1週間後、日本製紙から届いた封書を開けると、それは採用通知でした。もちろん、契約初任給は20万円になっていました。1994年7月のことでした。

追悼 兄貴『谷さん』、安らかに！

恒石 浩志

整肢療護園同窓会で会長や副会長を永らく務められた、谷内澄幸さんが、2025年3月14日に心不全の為、永眠されました（享年79）。

谷内さんは1945年8月10日、茨城県の農家の次男として防空壕の中で元気に産声を上げられました。生後3か月で『ポリオ（脊髄性小児麻痺）』に罹患され、両足が不自由になりました（1種1級）。

地元の医師から『整肢療護園』を紹介され、1955年4月2日に入園。2年半後の1957年8月に退園され、茨城へ帰られました。地元の中学校を卒業後、小平市にあった『東京都立小平職業訓練所時計課』に進学、時計修理の技術を学ばれました。卒業後は学校の紹介で、隣町の時計店に、修理販売員として就職されました。

1974年5月の同窓会総会で初めて幹事に選ばれ、いきなり副会長に。当時はまだ茨城県と東京都を結ぶ高速道路もなく、前日に東京の叔母宅に宿泊し、翌朝整肢療護園へ向かわれたとか。毎月「一泊二日での、幹事会への参加」だったそうです。幹事を一緒にした木澤せつ子さんにご縁があり、1977年6月19日結婚。1978年4月25日に長女、1987年2月25日に次女が誕生。娘さんたちは二人共、元気で健康にお育ちになりました。

その後、時計の修理・販売の会社から、時計の部品製造の会社へ転職。新しい会社は、主に置時計の文字盤印刷や文字盤への夜光塗料塗布製造の会社でした。

1994年、『頸椎ヘルニア』との診断を受け、入院。「手術では100%の完治は保証できない」との事で、別の治療方法を選択されたそうです。その治療方法とは「頭

髪を丸刈りにして頭蓋骨に穴を開け、5kgの重りで50日間もの長期間、頭を牽引・固定する」という物でした。ベッドに上向き姿勢のまま固定され、食事もし上向きのまま食べるという大変な経験をされました。幸いこの治療は成功し、後遺症もなく、無事社会復帰されました。

職場復帰後は協力工場への出向も経験され、最後の職場は検査部門でした。15名のパートさんを任されていたが、少しずつ注文数が減少して検査部門自体が閉鎖と決まり、パートの皆さんに説明をして辞めてもらいました。この「最後の仕事」は、本当に心が痛み、パートさん達に心よりお詫びをしたい気持ちで一杯だったそうです。パートさん全員が退職された後、35年間勤めた会社に退職届を提出、受理されました。

その後は年金生活となり、70坪位の家庭菜園で10～12種類の野菜を育てられていました。毎日毎日の畑仕事で、幹事会でお逢いする谷内さんの顔や腕は、いつでも真っ黒に日焼けされていました。

私にとっての谷内さんは、まるで「頼り甲斐のある兄貴」という感じでした。毎年同窓会旅行ではカラオケを披露され、十八番は伊藤久男の『イヨマンテの夜』。今でも、あの絶唱が忘れられません。

40代の頃には茨城県のお宅に泊まり掛けで飲みに行った事も何度もありました。谷内さんのお酒の飲み方は、一言で言いますと「綺麗なお酒」でした。決して乱れず、静かに飲まれていました。 合掌



とても心強く思っていました 岩井 勲寛

谷さんにはここ数年、副会長として会長代理をしてもらうことが多く、とても心強く思っていました。会うといつも「岩井、しっかりしろよ!」と、肩を叩いてくれて…。少し訛のあるあの声が、今も聞こえてくるようです。ご冥福をお祈りいたします。

何時も声を掛けてくださり 小原 昭子

谷内さんの訃報を聞きました。何時も会々と「旦那は元気か?」と声を掛けてくださり、ビールを注ぎに来てくださり、「ああ、療護園に来たんだなあ」と、思わせてくれた方でした。そのうち私も、彼方の世界に逝きますので、そうしたら、又一緒にお酒を飲むのを楽しみにしながら、残り少ない私の人生を一生懸命生きようと思います。本当にいろいろありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

かけがえのない先輩でした 岩井えり子

十代の頃から「えりちゃん、えりちゃん」と可愛がって頂きました。かけがえのない先輩でした。いつも同窓会の旅行の宴会を、楽しく和やかに盛り上げてくれて、同窓会にとって無くてはならない存在でした。歌が上手な谷さんの十八番、北島三郎の『北の漁場』、また聞きたいです。ありがとう。安らかに。

谷内さん、ごめんなさい 佐々木卓司

私は60歳になった時に、バンジョーという楽器を手に入れましたが、中々上達できません。そこでネットで調べていたら、茨城県の上野牧場という所で、バンジョーをやる人達が全国から集まって、『ブルーグラス・フェスティバル』をやっているという情報を得たのです。「茨城と言えば谷内さんだ!」と思い、谷内さんに相談したところ、「上野牧場なら知ってるぞ、連れてってやる!」と。さすがです。そこで早速、手に入れたばかりのバンジョーを持って、谷内さんにお供をお願いして、

上野牧場に出かけました。本当にバンジョーや、ギターや、フィドル、マンドリンなどを抱えている人達がたくさん集まっていて、谷内さんが私を紹介してくれて、仲間に入れてもらえました。早速ステージに上がって1曲やろうとしたら、バンジョーの音程が狂っているのです。さあどうしようと思い、思わず、ステージの上から「どなたかバンジョーの調弦方法を教えてくれませんか!」と叫びました。すると会場の皆さんが、「バカヤロウ! 調弦も知らないでステージに上がったんかい。しょうがねえ奴だなあ!」と言って、皆さんがステージに上がってきて調弦をしてくれて、全員で演奏する事になったのです。わたしはもう嬉しくて、「本当に来てよかったなあ」と思いました。谷内さんは、私がうまいと思って皆に紹介したのに、調弦も知らない奴だったのかとがっかりして、「卓、恥ずかしかったぞ!」と、お叱りを受けました。でも、その年から毎年この『フェス』には必ず行く事になった私ですが、谷内さんが来てくれたのは、この最初の1回だけでした。

地元の名士に恥をかかせてしまいました。

親しみをいつも感じていました 山本 雅常

谷内さん、ありがとうございます。同窓会、そのど真ん中に谷内さんはいつもいました。20周年頃、東園に同窓生を訪ねて、幹事みんなで行った時も、旅行の下見の時も、谷さんのカッコいいカローラに乗せて貰いました。茨城イントネーションは、私のお袋と同じで懐かしくもあり、親しみをいつも感じていました。去年のオータムフェスで、谷さんと車いすを並べて、屋台ものを一緒に食べて、「あまり気にすんな」と、小生の心と体を気遣ってくれました。畑で採れた野菜を分けてくれ、元気に日焼けしたその顔で。なのに、あまりに突然に。そりゃあ無いぜ、「谷さん又ね、元気で」って思わず言ってしまうそうです。

シリーズ・障害者と仕事 ⑥

72歳の私が体験してきた「仕事」

山本 雅常

1961年9月、8歳10か月の私は整肢療護園に入園。「ここで足は治る」と思った。男兄弟5人の末っ子、兄たちの様に近くの蕨駅から、小豆色の省線（＝国電）に乗って仕事に行く。そんな大人になれるとの夢を見たが、10歳を過ぎて「職能訓練」が始まると、兄たちとは違う「障害を抱えた将来」を自覚。

初めての仕事

退園して地元の小学校に転校し、中学、そして高校。友人から紹介して貰って、夏休みのアルバイト。テレビのプラスチック製パネルのバリを取る、バリ取りが終わったら積み上げる、この立ち作業が出来ない。手持ち無沙汰にしていると、見かねた一番年嵩の女性がパネルを抱えて運んで来てくれた。仕上がりも抱えて持って行ってくれ、引き返す足でパネルを抱えて私の前に置いてくれる。突然、作業長から、いきなりの「バイトの終了」を告げられる。私の補助をすれば、その分補助する人の仕上げ数が減る。「とてもバイト代に見合わない」というのが理由だった。夏休み一杯のアルバイトの予定が、たった2週間で終わってしまった。私の「初めてのアルバイト経験」は、ホロ苦い思い出となった。

バイクで有頂天

手にしたバイト代で、原付免許を取りに行った。試験場で私は、念入りに検査された。両手の指折り・開き、万歳、膝の屈伸によろける。右目は太陽を直視できるほど視力がない、怪訝な顔をされたが何とかパスし、学科試験もパス。手にした「原付二種免許証」を持って、中古バイク店へ。最安のホンダ・スーパーカブを購入。蕨、川口、浦和、与野と、友人と走り回った。楽

に走れて「普通に動ける喜び」を知った16歳。

左足は完全麻痺のポリオ（脊髄性小児麻痺）。自転車でも左によく倒れたが、細い足は車体の隙間に収まって怪我はしなかった。転倒でガソ

リンを溢す。ハンドルが曲がると電柱に前輪を打ち付けて向きを直す、ステップの曲がりもハンマーで直した。車体を分解して注油、プラグ交換も直ぐ覚えた。

就職と転職

高校3年の夏、担任の先生に、市役所、公務員にと勧められたがその気になれず、新聞の求人欄に「機械彫刻」の文字を見つけて会社訪問。川口市本町の小さな工場だった。「旋盤」のような作業機械で、彫り付ける仕事だった。彫刻する鉄材を旋盤に運ぶ、「その作業ができないだろう」と断られた。

母はこの頃、家政婦をしていて、付き添った中に歯科技工所の経営者がいた。「所内に障害者も働いている」と聞いて、就職した。そこには、中学時代の先輩がいた。両松葉のポリオで、学校前の坂を「手漕ぎ三輪自転車」で喘ぎながら登る姿を見ていた、その先輩がマイカーで通勤している。「歯科技工士になれば、クルマを持てるほどの収入を得られる！」と、希望が持てた。先輩は自宅に呼んでくれて、励ましてくれた。

朝8時始業、終業は普通で夜10時、深夜1時がほぼ定時に。無理が祟って胃潰瘍になる。上司が家に来て遺留してくれたが、やる気も全く失せて、僅か7ヶ月で辞める。自分の体力の無さと、根性の無さを思い知る。



職業安定所は大人が行くところと思い込んでいたので、職探しは専ら新聞の求人欄。そこで見つけた製菓工場の事務に応募し、就職できた。上司は両松葉杖のポリオの方で、安心した。業務から会社内の事まで、本当に細やかに教えてくれた。仕事は帳簿を付ける計算事務。当時はまだ高価だった電卓が貸与され、すぐに「電卓の早打ち」が得意になって、楽しかった。

暫くして販売専門の子会社への転籍を打診され、社長の実弟の重役がわざわざ家に来て、母に説明。世田谷区の駒澤大学の夜間部に通う希望を伝えて、承諾した。大田区の営業所に配属、20歳の春だった。

営業所内の一角にあった、休憩室に住み込む。同級の友人に貰った予備校の教材で受験勉強を始めるも、一人暮らしの乱れと食への無知からか、胃潰瘍が悪化して吐血し、肺気胸も発症。実家に戻ろうにも、歩けない。食事は所長の奥さんが大きなお腹を抱えながら、朝昼晩と運んでくれた。朝、配達先の伝票の起票だけをしながら、病院のベッドの空き待ち。待っている間に肺気胸は治まって、胃も薬で凌げるようになって、結局入院はしなかった。

家庭生活

療護園の先輩・荒木矢雄さんたちと新大久保の蕎麦屋で夕食を摂った時、彼らの眼前で吐血。荒木さんは胸からのアパラートで、懸垂のようにして松葉杖で歩く。ご自宅は世田谷。胃に良いからと「アロエ」を1束持って、大田のこの事務所まで来てくれた。電話で何度も心配してくれた。

21歳の時に整肢療護園同窓会の幹事になり（それもいきなり「同窓会会長」に！）。2年後、一緒に幹事を務めた平野ハル子さんとの結婚を決め、同窓会の先輩・佐藤幸男さんの住む、都営住宅の1階にある勤労

福祉会館で「結婚パーティ」を開いて頂く。その帰り道に、情宣部の恒石さんが、マイカーで、結婚祝いに贈られた「電気コタツ」も載せて、私達二人を大森駅近くのアパートまで送ってくれた。途中で夜の東京タワーを巡ってくれ、50年近く経った今でも、忘れられない思い出。この時、私、23歳11か月、相当に早い結婚だった。家内の作る食事で、少しずつ胃腸も体調も改善されていった。

障害者の利点

アパートで新生活が始まったものの生活は苦しく、生まれて初めて質屋に行って凌ぐ。障害者雇用促進法を知って、新宿の東京都障害者福祉センターの職業相談に行った。早々に紹介されたのが大崎の印刷会社。「貼り込み」という仕事で、給与が倍になった。すぐに聾唖の方が入社してきて、口話と筆談で、身の上話をし合った。この頃、桐が丘養護学校の齋藤秀元先生が、「障害者には都営住宅ポイント入居の特典がある」と教えて下さり、応募して即当選。都営住宅の低家賃に助けられる。子会社に出向して5年を過ぎた頃、子会社への転籍を求められるが、待遇と給与の落差に納得できず、退職。既に長女が生まれていて、不安の中での職探し。

港区田町の福祉会館で行われた障害者の集団面接にて、大手の自動車会社に決まる。その後、社内の受け入れ部署とかで暫く待たされた。その間に、職安の求人票で面接を受けた会社が、私の採用を決めた。その旨を、先の自動車会社の方に告げると、遺留された。受け入れる部署の部長・課長・主任の面接を受け、更に医師による健康診断、身体機能検査を受けて、1977年7月入社。大企業は中途入社が少ないのに、29歳、既婚、子持ちとあって、相当に驚かれた。

入社後暫くして、職安の職員の方が経過観察に来られ、「先ほど、しっかりとお仕事

をされているとの、勤務状態をお聞きしました。何社か転職をして来られて、大きな会社に採用されるのは珍しいことです。（ここで）続くように頑張りなさい」と、説論のような激励を受けた。会社に対し、職安が「見守っている」「十分な配慮」を伝えてくれたことに感謝した。

勤続31年、この間に相当に衰え、入社頃は自転車やバイクを乗り回す独歩4級が、片杖になって3級、更に両松葉2級になった。重度化は、障害福祉手当の過去5年分を貰ってクルマを買え、障害基礎年金の子どもの加算もあって、娘を私立高校・私立大学へと行かせる事が出来た。

上司が、私の「マイカー通勤」の許可を、会社に掛け合ってください、お陰で会社までたった15分間のマイカー通勤となる。豪雨も、少々の雪も、台風で社員の多くが出勤できない日も、格別の苦労もなく通勤できたのは、掛け合って下さった上司のお陰だったと、未だに、本当に感謝している。体の負担が少なくなったせいか、有給休暇を半分も余らすほど欠勤もなく、体力は気力となって業務に邁進できた。新車開発の社内モニターにも選ばれ、コンセプト・デザインから完成まで数年に亘って携わった。自動車雑誌に大きく載って、社内試写

で見たそのままがテレビCMになり、ショールームに鎮座の実車を触ったその感慨は、「一入（ひとしお）」だった。

入社早々に導入されたパソコンは、マイコン程度の性能で、英数半角カタカナしか入力できない。表計算やワープロ等のアプリケーションもない時代。計算もグラフもプログラミングしなければならない代物だった。社内の普及促進を担い、先輩にも後輩にも、操作方法や疑問の相談相手になったりした。時代は進んでパソコンからホスト・コンピュータにアクセス、パソコンの即時性が必須になっていく。法務・財務、監査業務にも当たらせて貰えて、10時と3時はお茶を入れてくれて、飲みながら専門書を広げて。時には資料室に籠もったり、社外の書店へも自由に行かせてくれた。

60歳定年

定年退職してから早13年、元上司や先輩・同僚とも、同窓会の様に繋がっていて、往時を懐かしんでいる。2024年、娘と孫とで会社のショールームに行った。ディスプレイされた展示車に、孫は目を輝かせていた。過日、「お祖父ちゃんのクルマ」と添えて、空き箱で作られた模型が、LINEで贈られて来て、孫より無邪気に喜ぶ、『72歳の私』。

幹事会議事録

2024年12月期定例幹事会議事録

日 時 2024年12月19日（木）13～15時。

出席者 恒石、谷内澄、山本、佐々木、田村、谷内せ（以上幹事）、内田二三子。

「ばんび小屋だより」131号の発送作業を実施。終了後、議事。

議題1 旅行

佐々木より旅行の会計報告があり、了承されました。

議題2 会計

本年4月より会計が佐々木に変わったので、払い出し郵便局を横浜から千葉に移行するため、関係書類を郵便局に提出します。（佐々木）

以上、議事。

来年の「新春の集い」は、開催が無理な事を確認しました。

（多目的棟3階会議室・谷内せ）

皆さんの『お便り』から

「ばんび小屋だより」をありがとう

近藤信一さん（福島県いわき市）

恒石さんから送られてくる「SSKPばんび小屋だより」も届いています。情宣部長として活躍している様子、伝わります。こういう親しい仲間間の情報誌は、その輪に参加している人々には格別楽しい読み物です。しかし、記事集めや編集、印刷手配をしてくれる人があってこそです。頑張ってください。

突発性難聴の件、読みました。私は、加齢性の難聴の傾向が出てきました。人によって聞き取りにくい場合があります。まあしょうがないかなと思っています。体の方も、年齢相応の状態になるのは自然です。それでも、なんとか2024年は過ごすことができました。感謝です。

心安らかに、年末年始を過ごしたいものですね。2025年、機会があったら、ビールでも飲みたいものですね。それではまた。お元気で。

私は今年、70歳になります

青木藤夫さん（足立区）

いつも会報を送って頂き、ありがとうございます。今回の会報も皆さん良く書いていて、私が整肢療護園にいた頃を思い出します。

私は2025年、70歳になります。最近自分の体がキツくなって来て、ずっと体が痛くて仕方ありません。毎年「同窓会旅行」のお知らせが来て、昔は良く参加していましたが、最近は中々参加する事が出来ていません。

恒石さんは以前、私の家に来てくれましたが、お忙しいと思うので、お体を大切にしてください。

この間、私の母の三回忌をしました。月に1回はお墓参りもしています。

1週間に3回の「訪問リハビリ」で頑張っています。機会があったら、皆さんにお会いしたいです。会報を引き続き送って下さい。

同窓会旅行 in TOKYOの写真をありがとう！

小野里日出子さん（港区）

2024年も、同窓会会報お疲れ様でした。2024年秋に戸山サンライズで開催された「同窓会旅行 in TOKYO」の写真、懐かしく拝見しました。車椅子の会員が多くなりましたね。

木下看護婦さん永眠の記事、お便り申し上げました。恒石さんもその後お元気になられたようで、安心しました。でも、呉々も油断なならない様にお願いします。

小林和子さんの素晴らしい「お働き」には感動いたしました。常に「時代の先」を読まれて、助けられた方々が沢山おられるのでしょうか。

「誇りに思える先輩」です。

東京都民の皆さん、東京都の「家庭のゼロエミッション行動推進事業」をご存知ですか？

恒石浩志さん（杉並区）

私は3月に「この事業」に応募して、全ての工事と支払いが完了しました。照明器具だけを購入して交換する場合には1台につき4千円、工事が必要な照明器具（例えば天井に直についている照明器具など）の場合は、1台につき6千円の補助金が出るという事業です。

私の家では数年前から「蛍光灯の照明器具」が古くなった時に、3台ほど「LED照明器具」をインターネットで購入して替えていましたが、今回購入した照明器具よりも高かったです。

4月3日に全ての工事が完了し、我が家の照明器具は全て「LED照明器具」となりましたので、「来月以降の電気代が、どの位安くなるだろうか？」等と、密かに期待しています。

本来掛掛かった費用は合計で64,760円でしたが、34,000円の補助金が東京都から出たので、私が実際に支払ったのは、30,760円でした（つまり、「補助金」の方が多いのです！）。

東京都にお住まいの読者の皆さん、あなたのお宅では、まだ「蛍光灯の照明器具」や「古い年式のエアコン、冷蔵庫、給湯器」等を使っていませんか？もしもそうならば、これは是非ともやるべきだと思います。

この事業の対象になるのは、「照明器具」だけではありません。既に設置済みの「エアコン」「冷蔵庫」「給湯器」などの製品を、省エネ性能の高い製品に買い替えた場合、様々な補助金が付与されます。

申込み期限は「2027年3月31日まで」となっています。

お近くの「家電量販店」へ行けば、親身になって相談に乗ってくれます。お早めにどうぞ！

風のたより

計 報

谷内澄幸さん 2025年3月14日、心不全の為永眠されました（享年79）。

新しい「同窓会会員」をご紹介します！

整肢療護園同窓会には「正会員」と「賛助会員」の2種類の「会員制度」（年会費は共に2,000円）があります。正会員は整肢療護園退園者、賛助会員は退園者以外で、同窓会の活動に関心を持たれたり、理解を示して下さる方ならば、どなたでも入会できます。

あなたの周囲に、まだ整肢療護園同窓会を知らない、会員となっておられない整肢療護園退園者、整肢療護園元職員、同窓会の活動に関心を持たれたり、理解を示して下さる方はおられますか？もしもおられましたら、「同窓会事務局」までご一報ください。

ご連絡・お問い合わせは、事務局及び会計・佐々木卓司までお願い致します。

〒261-0013 千葉県千葉市美浜区打瀬1-2-3 セントラルパークウエストB-403

携帯電話 080-3343-9765、自宅電話 043-272-4100（Fax兼用）

電子メールアドレス stakumaco2016@yahoo.co.jp

「同窓会会費」の振込み口座について

同窓会会費は、「正会員」、「賛助会員」共に年間2,000円、振込み口座は以下の通りです。

▽郵便振替口座 名称：整肢療護園同窓会 郵便振替口座番号：00160-7-8438

▽銀行口座 名称：整肢療護園同窓会 三菱UFJ銀行 三田支店 普通預金：1039229

正会員・賛助会員の皆様への「大切なお願い」

整肢療護園同窓会の運営（会報の発行、活動）は、「会員の皆様からの会費」によって支えられております。どうか健全な会の運営のため、会費の納入にご協力ください。

どうぞよろしくお願い致します！

編 集 後 記

『ばんび小屋だより』132号をお届けします。今号の記事の内容は、いかがだったでしょうか？事務局のメールアドレスは stakumaco2016@yahoo.co.jp です。パソコンやスマホでメールをやられている皆様は、是非とも『お便りメール』や『会報の記事に対する感想メール』の送信をお願いします。皆様の原稿がありませんと、会報は発行できませんので。

同窓会の68年の歴史の中で、現役幹事が逝去されたのは初めてだと思います。谷内さんの追悼文が異例の2ページになった事、お許し下さい。今回もご寄稿頂いた皆様のお陰を持ちまして、無事に会報『ばんび小屋だより』を発行する事が出来ました。外部の人間のセンター内での飲食が条件付きで許可される事になり、同窓会の三大行事（「同窓会総会」「同窓会旅行 in TOKYO」「新春の集い」）の開催にも弾みが付くのではないかと期待しています。

これからも、『整肢療護園同窓会』および会報『ばんび小屋だより』を、末永くご支援・お見守りくださいますように、お願いいたします！（情宣部・恒石浩志）

整肢療護園同窓会「ばんび小屋だより」132号
定価 200円（会費の中に含まれている）

☆発行責任者 岩井 叡寛
☆編集責任者 恒石 浩志